

平成25年度 滋賀県立高等学校入学者選抜の概要

- 平成25年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜実施校は、全日制課程の36校41学科、特色選抜実施校は、全日制課程の12校15学科であった。
推薦選抜、特色選抜合わせて6,166人が出願し、3,224人が入学許可予定者となった。
- 一般選抜は、学力検査の受検倍率が1.11倍であった。また、出願変更率は7.7%であった。

※ 以下 () は前年度

<推薦選抜>

1 出願状況			
募集枠	2,522人		
出願者数	2,658人	出願倍率	1.05倍 (1.10倍)
2 受検状況および入学許可予定者			
受検者数	2,658人		
入学許可予定者数	2,264人	合格率	85.2% (83.7%)

<特色選抜>

1 出願状況			
募集枠	960人		
出願者数	3,508人	出願倍率	3.65倍 (3.68倍)
2 受検状況および入学許可予定者			
受検者数	3,507人		
入学許可予定者数	960人	合格率	27.4% (27.2%)

<一般選抜・学力検査>

1 出願状況				
出願者数	8,261人	(8,169人)		
確定出願者数	8,224人	(8,116人)		
確定出願倍率	全日制	1.14倍 (1.13倍)	定時制	0.63倍 (0.59倍)
	全・定合わせて	1.12倍 (1.11倍)		
2 出願変更状況				
出願変更者数	632人	このうち37人は出願辞退者		
出願変更率	7.7%	(7.9%)		
	(1) 学科別出願変更率では農業学科が	13.8%	と最も高かった。(前年度は農業学科の	14.4%)
	(2) 学校出願を除く普通科の出願変更者数	357人	出願変更率	7.2% (6.4%)
3 受検状況				
受検者数	8,173人	受検倍率	1.11倍 (1.11倍)	
全日制	8,004人	1.13倍 (1.13倍)	定時制	169人 0.60倍 (0.58倍)
4 入学許可予定者				
(1) 学力検査による入学許可予定者数	7,099人	合格率	86.9% (87.0%)	
(2) 入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および科	18校21科	(17校23科)		

<二次選抜>

1 二次選抜募集の学校・科および募集定員			
全日制	13校15科118人	定時制	5校6科119人 全・定合わせて18校21科237人
2 出願状況	出願者数	151人	出願倍率 0.64倍 (0.62倍)
3 受検状況	受検者数	150人	受検倍率 0.63倍 (0.60倍)
4 入学許可予定者	入学許可予定者数	124人	合格率 82.7% (77.7%)

<入学許可予定者総数および実入学者数>

1 入学許可予定者総数	10,447人
2 実入学者数	10,441人
3 定員充足率	98.9% (98.6%)

平成25年度

滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ
(全日制・定時制・通信制)

滋 賀 県 教 育 委 員 会

[全日制の課程および定時制の課程]

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

この冊子は、平成25年度県立高等学校入学者選抜の結果についてまとめたものである。

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について、中高一貫教育に係る人数は除いている。

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

表1は推薦選抜、特色選抜の出願者数、入学許可予定者数等を示したものである。

推薦選抜実施校は、全日制課程のみの36校41学科(普通科21、専門学科14、総合学科6)であった。特色選抜実施校は、昨年度と同様の12校15学科(普通科12、専門学科3)であった。選抜は、いずれも2月7日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校106校中101校(昨年度106校中101校)、特別支援学校中学部13校中1校(13校中1校)、県外の中学校は20校(昨年度24校)であった。出願者数は、普通科で1,091人(昨年度1,076人)、農業学科で238人(昨年度252人)、工業学科で388人(昨年度373人)、商業学科で369人(昨年度390人)、家庭学科で90人(昨年度95人)、体育学科で44人(昨年度44人)、美術学科で37人(昨年度33人)、福祉学科で22人(昨年度16人)、総合学科で379人(昨年度405人)であった。この結果、出願者数合計は、2,658人(昨年度2,707人)となり、出願倍率(募集枠に対する出願者の割合)は、推薦を実施した普通科では1.02倍(昨年度1.08倍)、専門学科で1.15倍(昨年度1.17倍)、総合学科では0.91倍(昨年度0.97倍)となり、実施学科全体では1.05倍(昨年度1.10倍)であった。この結果、2,264人が入学許可予定者となり、合格率は85.2%(昨年度83.7%)であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校106校中102校(昨年度106校中101校)、県外の中学校は18校(昨年度21校)であった。出願者数は、普通科で3,385人(昨年度3,355人)、理数学科で88人(昨年度91人)、音楽学科で35人(昨年度38人)であった。この結果、出願者数合計は3,508人(昨年度3,484人)となり、出願倍率は、特色選抜を実施した普通科では3.76倍(昨年度3.78倍)、専門学科では2.05倍(昨年度2.15倍)となり、実施学科全体では3.65倍(昨年度3.68倍)であった。この結果、960人が入学許可予定者となり、合格率は27.4%(昨年度27.2%)であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,224人が入学許可予定者となり、合格率は52.3%(昨年度51.9%)であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等

学科	項目	募集定員 A	募集枠		出願者 数 B	受検者 数 B'	出願倍 率 B/A'	入学許可予 定者数 C	合格率 C/B' (%)	
			%	人数A'						
推 薦 選 抜	普通科	3,840	20~30	1,074	1,091	1,091	1.02	975	89.4	
	専 門 学 科	農業	440	50	220	238	238	1.08	217	91.2
		工業	840	40~50	412	388	388	0.94	324	83.5
		商業	520	50	260	369	369	1.42	254	68.8
		家庭	160	35~40	60	90	90	1.50	51	56.7
		体育	40	75	30	44	44	1.47	30	68.2
		美術	40	75	30	37	37	1.23	30	81.1
		福祉	40	50	20	22	22	1.10	20	90.9
	小計	2,080		1,032	1,188	1,188	1.15	926	77.9	
	総合学科	1,080	30~40	416	379	379	0.91	363	95.8	
合計	7,000		2,522	2,658	2,658	1.05	2,264	85.2		
特 色 選 抜	普通科	3,160	20~30	900	3,385	3,384	3.76	900	26.6	
	専 門 学 科	理数	80	50	40	88	88	2.20	40	45.5
		音楽	40	50	20	35	35	1.75	20	57.1
		小計	120		60	123	123	2.05	60	48.8
	合計	3,280		960	3,508	3,507	3.65	960	27.4	
総合計	10,280		3,482	6,166	6,165	1.77	3,224	52.3		

(2) 一般選抜の結果

3月6日に実施した一般選抜は、学力検査定員7,336人に対し、確定出願者数は8,224人であり、確定出願倍率は1.12倍であった。この結果、7,099人が入学許可予定者となり、合格率は86.9%であった。

3月19日に実施した二次選抜は、二次選抜定員237人に対し、受検者数は150人であった。この結果、124人が入学許可予定者となり、合格率は82.7%であった。

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	平成25年度	平成24年度
学力検査	学力検査定員 A		7,336	7,306
	出願者数		8,261	8,169
	確定出願者数 (倍率)		8,224 (1.12)	8,116 (1.11)
	受検者数 B (倍率)		8,173 (1.11)	8,097 (1.11)
	不合格者数		1,074	1,053
	入学許可予定者数 C		7,099	7,044
	合格率 C/B(%)		86.9	87.0
二次選抜	二次選抜定員 A-C		237	262
	出願者数		151	163
	受検者数 D (倍率)		150 (0.63)	157 (0.60)
	不合格者数		26	35
	入学許可予定者数 E		124	122
	合格率 E/D(%)		82.7	77.7
入学許可予定者数合計 C+E			7,223	7,166

(3) 入学者選抜の結果

3月13日に発表した県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は10,323人であり、その内、推薦選抜による者は2,264人、特色選抜による者は960人、一般選抜による入学許可予定者数は7,099人であった。また、3月22日に発表した二次選抜による入学許可予定者数は124人であり、県立高等学校全日制および定時制の入学許可予定者を合わせて10,447人となった。そのうち、全日制では募集定員10,280人に対して入学許可予定者数10,235人となった。

4月8日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は10,441人で、募集定員の98.9%(昨年度98.6%)となった。

表3 入学許可予定者数等

項目		年度	平成25年度			平成24年度
			全日制	定時制	合計	
県内中学校卒業予定者数					14,448	14,363
募集定員 A			10,280	280	10,560	10,520
推薦選抜入学許可予定者数			2,264	—	2,264	2,266
特色選抜入学許可予定者数			960	—	960	948
一般選抜入学許可予定者数			6,938	161	7,099	7,044
二次選抜入学許可予定者数			73	51	124	122
総計	入学許可予定者総数		10,235	212	10,447	10,380
	実入学者数 B				10,441	10,372
	定員充足率 B/A(%)				98.9	98.6

県内中学校卒業生数は各年度1月15日教育総務課調査による。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科をはじめ工業学科、商業学科、音楽学科の4学科（昨年度9学科）であった。

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等

項目	学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	福祉	総合	
募集定員 A	10,560	7,120	440	960	560	160	80	40	40	40	40	1,080	
推薦選抜	募集枠(人数)	2,522	1,074	220	412	260	60	—	30	—	30	20	416
	受検者数 B	2,658	1,091	238	388	369	90	—	44	—	37	22	379
	入学許可 予定者数 C	2,264	975	217	324	254	51	—	30	—	30	20	363
	合格率 C/B	85.2	89.4	91.2	83.5	68.8	56.7		68.2		81.1	90.9	95.8
特色選抜	募集枠(人数)	960	900	—	—	—	40	—	20	—	—	—	—
	受検者数 D	3,507	3,384	—	—	—	88	—	35	—	—	—	—
	入学許可 予定者数 E	960	900	—	—	—	40	—	20	—	—	—	—
	合格率 E/D	27.4	26.6	—	—	—	45.5	—	57.1	—	—	—	—
一般学力検査	学力検査定員 A-(C+E)	7,336	5,245	223	636	306	109	40	10	20	10	20	717
	確定出願者数	8,224	*4,968	263	636	331	131	**	**	17	**	20	746
	受検者数 F	8,173	*4,937	262	632	329	131	**	**	17	**	20	741
	入学許可 予定者数 G	7,099	5,125	223	550	285	109	40	10	17	10	20	710
	合格率 G/F	86.9	***	85.1	87.0	86.6	83.2	***	***	100	***	100	95.8
選抜二次	二次選抜定員 A-(C+E)-G	237	120	—	86	21	—	—	3	—	—	7	7
	出願者数	151	100	—	32	6	—	—	0	—	—	13	13
	受検者数 H	150	100	—	32	5	—	—	—	—	—	13	13
	入学許可 予定者数 I	124	80	—	32	5	—	—	—	—	—	7	7
	合格率 I/H	82.7	80.0	—	100	100	—	—	—	—	—	—	53.8
総計	入学許可予定者	10,447	7,080	440	906	544	160	80	40	37	40	40	1,080
	実入学者数 J	10,441	7,076	440	905	543	160	80	40	37	40	40	1,080
	過不足 J-A	-119	-44	0	-55	-17	0	0	0	-3	0	0	0
	定員充足率	98.9	99.4	100	94.3	97.0	100	100	100	92.5	100	100	100
前年度定員充足率	98.6	99.2	99.8	93.6	97.1	99.4	100	100	92.5	95.0	90.0	100	

* 学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

** 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

*** 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表 学校出願

項目	学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術
一般選抜	学力検査定員 A-(C+E)	420	40	224	10	150	10
	確定出願者数	610		340		162	
	受検者数 D	607		338		159	
	入学許可予定者数 E	420	40	224	10	149	10

3 学力検査における出願変更者数について

表5は、学科別の出願者数および出願変更者数等を示したものである。

出願者数8,261人に対し、出願変更者数は632人(昨年度642人)、出願変更率は7.7%(昨年度7.9%)となり、確定出願者数は8,224人であった。

各学科別の出願変更率は、農業学科の13.8%が最も高く(昨年度の最高は農業学科が14.4%)、次に、工業学科の9.7%であった。

表5 学科別の出願変更者数

(昨年度)

学科	項目	学力検査 定員	出願 者数 A	出願変更者数 B (第1志望を 取り下げた数)	出願 変更率 B/A(%)	確定出 願者数 C	出願 変更 者数	出願 変更 率(%)
* 普通		4,451	4,958	357	7.2	4,968	303	6.4
農業		223	282	39	13.8	263	41	14.4
工業		636	631	61	9.7	636	84	12.6
商業		306	340	32	9.4	331	45	12.1
家庭		109	126	3	2.4	131	6	5.2
音楽		20	17	0	0.0	17	2	10.5
福祉		20	21	1	4.8	20	1	9.1
国際		-	-	-	-	-	1	3.0
総合		717	756	48	6.3	746	76	9.7
学校 出願	普通・理数	460	623	40	6.4	610	41	6.3
	普通・体育	234	355	44	12.4	340	37	11.7
	普通・美術	160	152	7	4.6	162	5	3.2
合計		7,336	8,261	632	7.7	8,224	642	7.9

* 普通科は学校出願を除く

4 学力検査における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は全日制の課程では、昨年度と同様で、愛知高等学校、湖南農業高等学校、八日市南高等学校の3校8科であった。定時制の課程では、昨年度と同様で、大津清陵高等学校の昼間、夜間が実施した。

また、受験生の関心・意欲をみるための点数化しない面接を実施した高等学校は、全日制の課程では、甲南高等学校、信楽高等学校の2校4科(昨年度3校6科)であった。

実技検査を実施した学校は、草津東高等学校(体育科)、栗東高等学校(美術科)の2校2科であり、昨年度と同様であった。

なお、作文については実施校はなかった。

5 学力検査について

(1) 出題の方針等

各教科の学力検査問題は、平成15年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。中学校学習指導要領に示された内容に基づき、単なる知識量のみではなく、学校で学んだ知識を基礎に、思考力・判断力・表現力をみるための設問を多くするなど、工夫を凝らして問題の作成に当たった。

国語では、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えを適切に書き表す力、言語事項に関する力をみることをねらいとした。

数学では、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解をみるとともに、事象を数理的に考察する力や見通しをもって数学的に表現し処理する力をみることをねらいとした。なお、中学校の新学習指導要領への移行に伴い、先行実施分からも出題した。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて科学的に探究する力をみることをねらいとした。なお、中学校の新学習指導要領への移行に伴い、先行実施分からも出題した。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解し、自分の考えを英語で表現するなどのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

(2) 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点満点(5教科合計で540点満点)で実施した。

(3) 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

各検査教科ごとの受検者の平均点は国語54.2点、数学48.0点、社会48.4点、理科43.5点、英語38.0点であった。

[単位制 転・編入学、通信制の課程]

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部で実施した転・編入学については、36人（昨年度42人）の出願者（受検者35人）があり、定員40人に対し0.88倍（昨年度1.05倍）の倍率となり、35人が入学許可予定者となった。二次選抜では、5人が入学許可予定者となり、合計40人が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員320人のところ一次選抜では、176人の出願者（昨年度182人）に対して、176人（昨年度182人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、46人（昨年度51人）が入学許可予定者となり、合計222人（昨年度233人）が入学許可予定者となった。

表6 募集定員，志願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合計	
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A
平成 25 年度	転 編 入	40	36	35	0.88	0	5	5	40	0
	通 信 制	320	176	176	0.55	0	46	46	222	-98
平成 24 年度	転 編 入	40	42	40	1.00	0	—	—	40	0
	通 信 制	320	182	182	0.57	0	51	51	233	-87

平成25年度 国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えを適切に書き表す力、言語事項に関する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題文章については、「日本の美意識や古典に見られる旅の捉え方に関する文章であり、良問である。」「現代人に通じる『旅』がテーマなので、親しみやすい内容であった。」「古典の代表作である『徒然草』を取り込んで、現代人に通じる『旅』をテーマに作問されていたが、受験生にとっても身近な感性で問題に取り組めたのではなかろうか。」などの意見があった。

設問については、「文章構成や論理展開を把握し、筆者の考えを正確にとらえることができるかを問う良問であった。」「そのまま抜き出すのではなく、自分なりに言葉を置き換えて丁寧にまとめさせるという、思考力・表現力の求められる問題であった。」「設問の意図も明確で、受験生の力をはかるのに適切であった。」という意見や、作文に関して「条件が明確であり、必要な要素をまとめて記述する力をみることに非常に工夫されている。」「両者のねらいを比較して書く問題であったので、受験生にも解答しやすく、また採点基準も明確なので採点しやすかった。」「一般論の羅列では作文できないよう工夫された良問である。提案のねらいをもう一方と比較しながら述べさせることで、論理的な表現力を試すことができた。」などの意見があった。

3 解答の分析

□において、漢字の問いについては「織（りなす）」「洗練」の書きの正答率が若干低いこと以外は良好であった。文脈の中における語句の意味をとらえる力を問う問題も良好であった。筆者の主張の理由にあたる部分を、文中から抜き出して答える力を問う問題も概ね良好であったが、筆者の考えを要約して書きまとめる力を問う問題では、正答率が低かった。今後は、読み取った内容を的確にまとめて表現する力を身につけさせる必要がある。

□の作文では、二つの提案を比較しながらそのねらいについて説明することを通して、自分の考えをまとめ、適切に表現する力を求めた。求める条件が明確であったため、昨年よりも正答率が向上した。今後も必要な情報を取り出し、解釈し、身近な生活の中で経験したことや学習したことを活用して、自分の考えを論理的にまとめて表現する力のさらなる育成が望まれる。

□において、漢字の問いは概ね良好な正答率であったが、（苦労を）「買（って）」の書きは、文脈から適切な漢字を判断する必要があり、易しい漢字であるにもかかわらず約3分の1の受験生が誤答していた。同音異義語を適切に使い分ける力の育成が必要である。言葉のきまりに関する基礎的な力をみる問題も良好であった。しかし、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに書き換える問いについては、「ず」と「づ」を使い分けて書く力が不十分であったため、正答率が低くなった。また、文章全体の要旨をとらえ、自分でまとめて記述して答える問いの正答率も低かった。今後も、筆者の考えを正しくとらえ、指示にしたがい字数内で要約する力のさらなる育成が求められる。

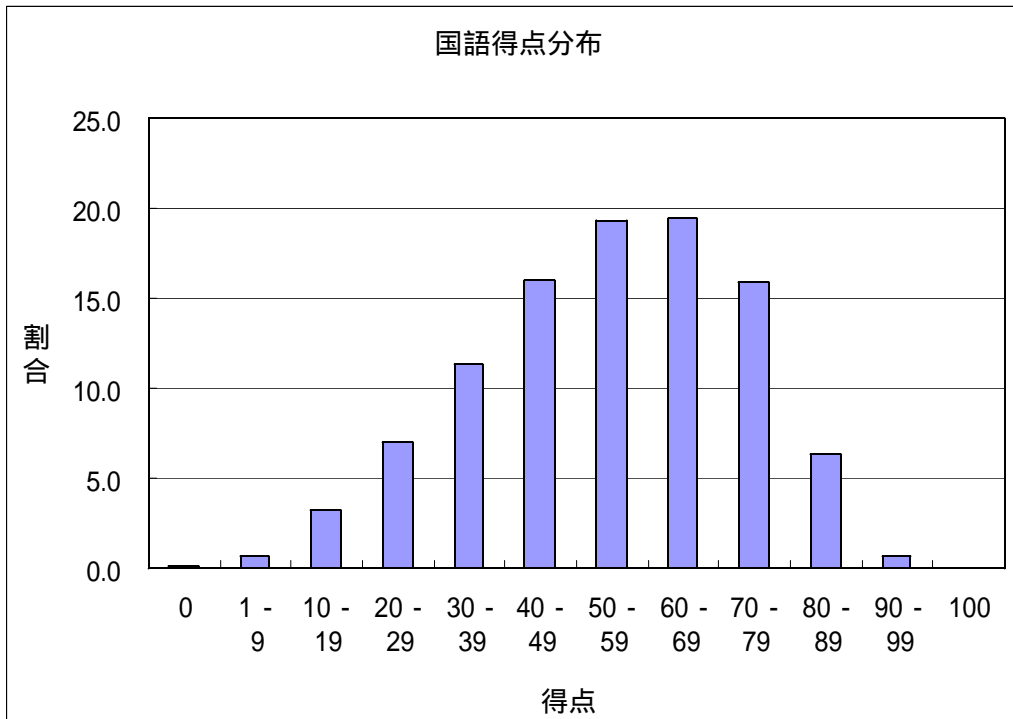
全体として、書かれた内容の大体の意味を理解する力については身につけている。しかし、自分が理解した内容をもとに考えたことを、根拠を明確にして簡潔にまとめ、適切に書き表す力についてはさらなる育成が望まれる。

国 語

問題区分		正答率 (%)
目	1	82.8
		48.6
		56.1
		93.7
		38.6
	2	87.3
	3	58.2
	4	6.9
	5	63.1
	6	57.9
	目	21.2

問題区分		正答率 (%)
目	1	98.4
		66.5
		63.4
		79.2
		72.1
	2	28.9
	3	31.2
	4	30.3
	5	72.1
	6	2.6
	7	55.4

年 度	平均点	標準偏差
平25 (100点満点)	54.2	18.5



平成25年度 数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）および特例により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえながら、数学的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解をみるとともに、事象を数理的に考察する力や見通しをもって数学的に表現、処理する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「基本的な問題から応用にいたるまでの総合的な問題である。」

「普段の学習をしっかりと積み上げておくことで十分解くことができ、数学的に考察・表現し、処理する力をみるのにふさわしい問題構成になっている。」「問題に関連する図が多くつけられていて理解しやすい。物理的な現象を数学的に捉えた問題のように具体的にイメージしやすい問題であった。」などの意見が寄せられた。

各設問について、「単純な図形で、相似の関係に気付かせたり、図形の分解と再構成力をみたりする問題であった。」「テーブル上の球の動きと円の接線の性質を関連させ、円の中心を通ることに気付かせる良問であった。」「容器に水を入れ、傾けるなど動的な事柄から関数関係を見だし、数理的に処理する方法を見るのに適した問題構成となっている。」などの意見があった。

3 解答の分析

①の数と式の計算、2次方程式の基礎的・基本的な問題については正答率が比較的高く、よく理解できていた。与えられた長方形と面積の等しい正方形をつくる問題では、三角形の相似の証明において、角度が等しいことの根拠が無かったり、正方形に書き入れた線が垂直に交わっていなかったりした。根拠となる「図形の性質」を明らかにしながら、筋道立てて説明する力の育成が望まれる。

②の枠ではね返る球の動きをもとに、作図する力、円の半径と接線との関係、三角形の相似などを用いて、平面図形の性質について、考察する力や数学的に処理する力をみる内容であったが、球を打ち出す位置や球の動いた長さを求める問題は正答率が低かった。観察、操作や実験などの活動を通して、図形の性質について直観的にとらえたり、見通しをもって論理的に考察し表現する力の育成が求められる。

③の容器に水を入れたり、傾けて水を流し出したりする場面を取り上げ、水の深さと水の体積の変化について、関数関係を見だし表現する力、グラフや式を用いて考察する力や数学的に処理する力をみる内容であったが、体積から水の深さを求める問題は正答率は低かった。身近な事象について、与えられた条件を的確にとらえ、グラフを読みとり具体的な場面と結びつける力、事象を数理的に考察する力の育成が望まれる。

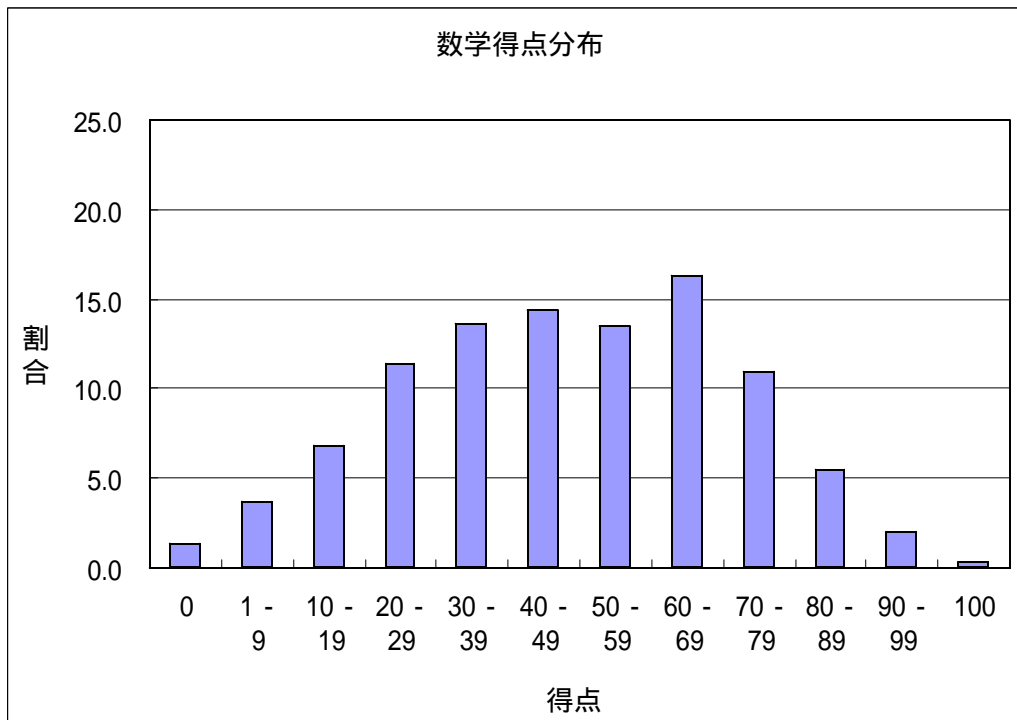
全体として、数や式の計算、方程式、確率等の基礎的・基本的な事項や概念についてはおおむね理解できているといえる。今後は、断片的な理解や知識の習得にとどまることなく、課題解決することを通して数学の各領域の内容を関連付けて活用する力を高めるとともに、言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を積極的に取り入れながら、数学的な思考力・判断力・表現力を育成することが望まれる。

数 学

問題区分		正答率 (%)
1	(1)	95.0
		88.8
		89.1
		73.0
		74.5
	(2)	73.5
	(3)	48.7
	(4)	53.6
	(5)	35.0
		43.6

問題区分		正答率 (%)
2	(1)	41.1
	(2)	27.9
	(3)	2.8
3	(1)	38.2
	(2)	25.0
		34.2

年 度	平均点	標準偏差
平25 (100点満点)	48.0	22.8



平成25年度 社 会

1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的事項の理解をみるとともに、多面的・多角的に考察する力をみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「地理、歴史、公民の三分野について基礎的事項の確認をし、いろいろな事象に対して多角的に考察する問題が出題されている。」「文章だけでなく、図、資料、写真など、様々な資料を活用し関連づけて考察させた上で解答を求める方針は“考える社会科”という点から大いに評価できる。」「地理的分野は、地図の見方や土地利用、その地域の歴史的内容とも関連させた、総合的な知識、思考力を求めている良問が多く見られる。」「歴史的分野は、幅広い年代を網羅し、地図、史料、写真を用いて総合的に考えさせる良問である。」「公民的分野は、文章や写真、図版、表など、各種の資料をおりませた、分かりやすい問題である。政治、経済、双方のバランスもとれている。郷土の滋賀県に関わる問題もあり親しみやすい。」などの意見があった。

3 解答の分析

①は、地図や資料をもとに、環境の多様性や地形図の見方などの理解をみるとともに、土地利用や都道府県の特色について、考察し判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。地図を活用する問題では正答率が50%以上であり、基礎的・基本的な事項の理解はおおむねできているといえる。しかし、適切に表現する問題では正答率が低く、今後は用語について生徒なりに説明させる、資料から分かることを述べさせる、書かせるなどの活動を充実させる必要がある。

②は、表や資料、略地図をもとに、各時代や文化の特色についての理解をみるとともに、歴史の大きな流れと、わが国の公益や産業の発達について、考察し判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。各時代の特色についての理解をみる問題については正答率が高く、基礎的・基本的な事項の理解はおおむねできているといえる。しかし、歴史の流れについて考察して判断し、説明する問題では正答率が低く、歴史の大きな流れを理解し、適切に表現する力を育てていく必要がある。

③は、図や資料をもとに、市場の働きや国際連合の役割などについての理解をみるとともに、司法や持続可能な社会について、考察し判断する力や表現する力をみる問題であった。基礎的・基本的事項の理解をみる問題では正答率が高いが、説明させる問題では正答率が低く、今後は、地域の課題について日頃から関心をもち、自らの生活との関連を考えさせるとともに、適切に表現する力を身につけられるような指導が望まれる。

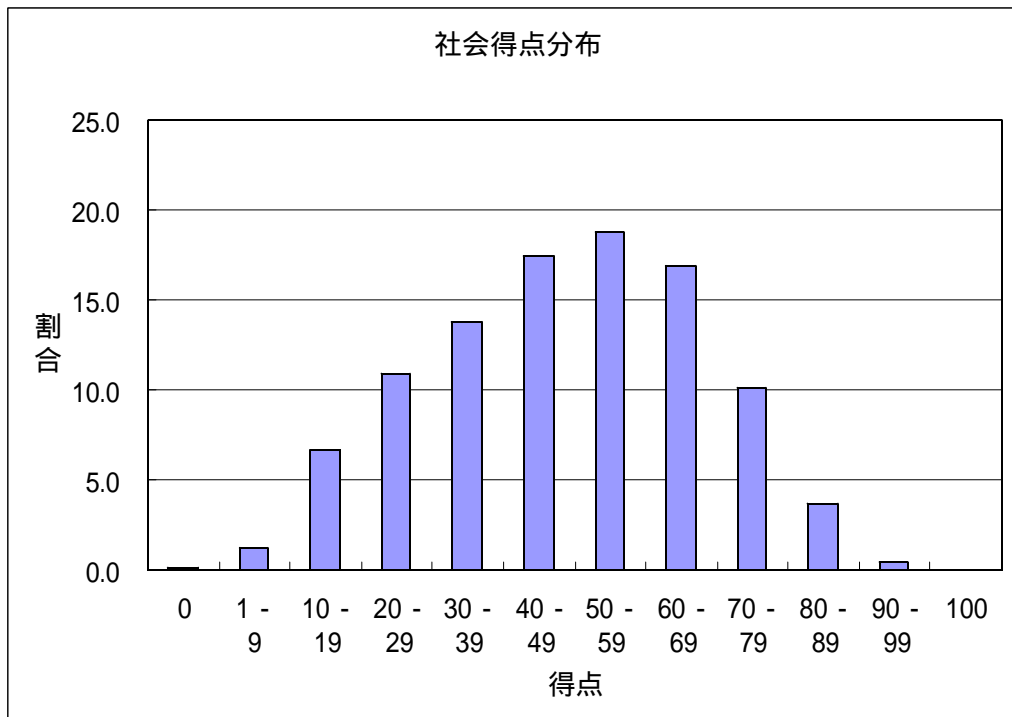
全体的に、地理、歴史、公民の各分野における基礎的・基本的事項についてはおおむね理解できている。しかし、資料からさまざまな情報を読み取り、適切に表現する力を身につけさせることが必要であり、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、社会的事象を多面的・多角的に思考・判断して、表現する力を育成する指導が望まれる。

社 会

問 題 区 分		正答率 (%)		
1	1	(1)	20.6	
		(2)	40.2	
		(3)	63.7	
		(4)	10.5	
	2	(1)	57.7	
		(2)	76.3	
		(3)	19.2	
		(4)	42.0	
		(5)	県名	29.7
			理由	11.1
2	1	(1)	48.6	
		(2)	45.9	
		(3)	47.2	
		(4)	72.0	
		(5)	10.1	
		(6)	18.0	
	(7)	特徴	43.5	
		貨幣	54.8	

問 題 区 分		正答率 (%)		
2	2	(1)	54.6	
		(2)	22.1	
		(3)	38.1	
3	1	(1)	68.2	
		(2)	78.4	
		(3)	50.9	
	2	(1)	68.2	
		(2)		60.2
				10.1
		3	(1)	54.1
	(2)		22.1	
	4		35.1	

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平25(100点満点)	48.4	19.3



1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）および特例により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえた、自然の事物・現象についての科学的な見方や考え方をみるようにした。

また、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて科学的に探究する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「身のまわりのものを題材とした観察、実験を通して、科学的に考察させ、記述させる工夫が見られた。」「基礎的・基本的事項についてバランスよく確認できるよう配慮されており、グラフや表をもとに科学的に探究する力を問うものであった。」「文章で答えさせる問題が増え、筋道を立てて説明するなど、自分の考えを表現する力がより一層求められた。」などの意見があった。

3 解答の分析

①では、天気図の読み取りなど、気象に関する基本的な事項を問う問題については比較的正答率が高い。一方、自作の気圧計を使って科学的な原理にもとづき自然のしくみを探究させる問題では正答率が低く、今後さらに基礎的・基本的な知識を活用して考察する力の育成が望まれる。

②では、土の中の微生物に関する基礎的な知識や、基本的な実験の技能を問う問題については正答率が高い。一方、実験の結果と関連付けて考察する問題や自然界における微生物と植物とのつながりを問う問題では正答率が低く、今後は実験結果をもとに科学的に考察する力の育成が求められる。

③では、化学変化と気体の性質に関する基礎的な知識を問う問題については正答率が高い。一方、実験結果から化学変化のしくみを考察する問題では正答率が低い。今後は、複数の実験を関連付けて考察し、的確に表現する力の育成が求められる。

④では、力学的エネルギーに関する基礎的・基本的な事項を問う問題については比較的正答率が高い。一方、グラフから必要な情報を取り出し関係性を見いだす問題や、力学的エネルギーの保存に関する問題については正答率が低く、今後はグラフを用いて実験結果を分析し的確に表現する力や、基礎的・基本的な知識を活用して物理的な現象を考察する力が求められる。

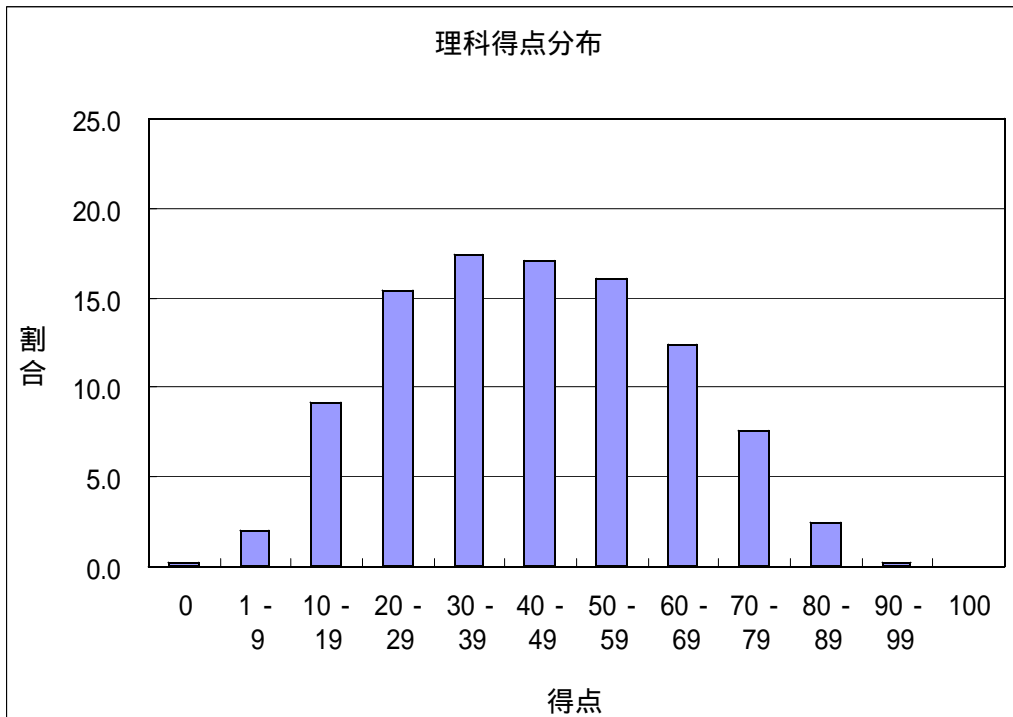
全体として、個々の基礎的・基本的な事柄や概念についてはおおむね理解できているといえる。しかし、事物・現象を科学的に考察し認識する力、および考察や認識を的確に表現する力はやや弱いと考えられる。今後も自然や日常生活に見られる事物・現象に進んで関わり、目的意識をもって科学的に探究し、考察したことを的確に表現する活動を通して、科学的な思考力や判断力、表現力を育成することが求められる。

理 科

問題区分		正答率 (%)	
1	1	天気	70.2
		風向	75.2
		風力	84.0
	2	39.8	
	3	29.1	
	4	9.0	
	5	32.3	
2	1	67.5	
	2	52.5	
	3	44.6	
	4	9.7	
	5	8.7	

問題区分		正答率 (%)	
3	1	91.3	
	2	60.6	
	3	34.3	
	4	4.1	
	5	15.9	
4	1	88.5	
	2	19.3	
	3	(1)	37.3
		(2)	35.1
	4	6.5	

年 度	平均点	標準偏差
平25(100点満点)	43.5	19.3



平成25年度 英 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。

また、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解し、自分の考えを英語で表現するなどのコミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「新学習指導要領の内容を十分に踏まえた出題で、コミュニケーション能力の育成を意識した問題構成であった。」「思考力・判断力・表現力を問う問題が増え、今後の英語学習の在り方を示すものであった。」「4技能を統合的に活用できる力を問うとともに、基礎的・基本的な知識・技能を問う問題がバランスよく配置されていた。」「各問とも、中学生にとって親しみやすい身近な場面が取り扱われており、その内容は中学生が読む英文として適切なものであった。」などの意見があった。

3 解答の分析

①の聞き取り問題では、絵を見て答えを選ぶ問題の正答率や、初歩的な会話の流れや内容を聞き取る問題の正答率が高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が表れている。しかし、前後の流れから内容を理解したり、聞き取った内容や事実を英語で正しく表現したりする問題では正答率が低かった。日ごろから、相手が伝えようとする内容を聞き、それをもとにコミュニケーションを図るような活動を一層充実させることが望まれる。

②は、生徒が書いた日記と、それに対するALT（外国語指導助手）のコメントを素材にして、書き手が伝えようとすることを読み取る力や、場面や状況に応じて英語で適切に表現する力をみる問題である。英文の内容を読み取る問題や基本的な構造を理解する問題では、比較的高い正答率であったが、英文の内容を読み取ったうえで、それについて日本語や英語で表現する問題については正答率は低かった。日ごろから、英文のあらすじや大切な部分などを的確に読み取り、読んだ後に英文の内容や自分の意見、感想等を表現し合う活動をより計画的・系統的に行うことが望まれる。

③は、生徒と留学生の会話を素材に、英語の理解力や表現力などを総合的にみる問題である。英語の基本的かつ運用度の高い表現を選択肢から選ぶ問題や、会話の流れを把握しているかをみる問題では、比較的高い正答率であったが、場面や状況に応じて適切に表現する力をみる問題の正答率は低かった。まとまりのある英文の内容を的確に読み取り、読み手としての感想や意見、賛否およびその理由を表現する活動をより一層充実させることが望まれる。また、それにとどまらず、自分の考えや気持ちを明確にしたうえで、適切な表現を用いて応じたり書いたりする活動を取り入れることも重要である。

全体的には、初歩的な英語を聞いて話し手の意向を理解する力や、英文を読んで大まかな流れをつかむ力はあるが、大切な部分を聞き取る力や的確に読み取る力、また場面や状況に応じて適切に表現する力は十分に定着しているとは言えない。より豊かな表現を可能にし、コミュニケーションをより充実できるようにするため、語彙の定着を図り、語順や構造を意識させるとともに、それらを言語活動と効果的に関連付け、実際に活用できるように指導することが重要である。そのためには、英文を聞いたり読んだりした内容を理解するだけでなく、それに対する自分なりの感想や意見などをもち、それをもとに生徒がコミュニケーションを図るような指導を一層充実させることが望まれる。

英 語

問題区分			正答率 (%)	
1	《その1》	1	74.2	
		2	58.3	
		3	30.9	
	《その2》	(A)	1	77.3
			2	45.9
		(B)	1	74.1
			2	37.8
《その3》	1	26.7		
	2	5.4		
2	1		24.4	
	2		11.5	
	3		48.3	
	4		48.0	
	5		51.5	
	6		18.5	

問題区分			正答率 (%)
3	1		59.0
			71.0
	2		30.9
	3		1.3
	4		6.3
	5		71.1
	6	1	5.3
		2	30.7
		3	2.9
		4	12.1
		5	40.3
	7		40.3
	8		13.3

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平25 (100点満点)	38.0	20.4

